

論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※ 甲 第	号
------	-------	---

氏 名 中 西 啓 介

論 文 題 目

乳がん治療関連リンパ浮腫のセルフケアプログラム開発
のための基礎的研究

論文審査担当者

主 査

名古屋大学教授

山内 豊明

名古屋大学教授

安藤 詳子

名古屋大学教授

藤本 悦子

論文審査の結果の要旨

昼夜にわたって実施する弾性包帯法 (Multilayer Bandaging ; MLB) は、乳がん治療関連リンパ浮腫 (Breast Cancer Related Lymphedema ; BCRL) の浮腫そのものや苦痛症状を軽減するとされる。しかし、昼間の MLB は実生活において行われにくい。より実践的なセルフケアプログラムを構築するには、夜間の MLB を基盤にすることが肝要であると考えられるが、夜間に行う MLB それ自体でどれだけの効果があるのかは不明である。そこで本研究は、基礎的研究として、上肢の一方に BCRL を有する患者を対象に、被験者自身による 7 夜連続の MLB を患肢に実施し、その浮腫軽減効果を部位別生体インピーダンス法で検討した (研究 1)。また、Visual Analog Scale (VAS) で測定された患肢の自覚症状の変化および、MLB の実施時間や被験者への聞き取り調査から、夜間の MLB のアクセシビリティを検討した (研究 2)。さらに、アクチグラフで測定された睡眠の質に関する指標 (中途覚醒、入眠潜時、睡眠効率) および三軸加速度計で測定された日中の身体活動量の変化から、夜間の MLB が患者の生活に悪影響を及ぼすかどうかを検討した (研究 3)。

本研究の新知見と意義を要約すると以下のとおりである。

1. 夜間の MLB は BCRL の液体成分を減少させることが明らかになった。
 - ・患肢の水分量、細胞内水分量、細胞外水分量の低下は被験者 8 名中 6 名に認められた。
 - ・患肢の水分量、細胞内水分量、細胞外水分量は介入後に有意に低下した。健肢では、これらの値に変化はなかった。
2. 夜間の MLB は BCRL に伴う不快症状を軽減する上、被験者のアクセシビリティは良好であることが明らかになった。
 - ・患肢の主要な苦痛症状は介入後に有意に低下した。
 - ・介入期間中の夜間の MLB に対する被験者のコンプライアンスは良好であった。
 - ・被験者 8 名中 5 名は、介入期間終了後に自宅での MLB 実施経験を有した。
3. 夜間の MLB は睡眠の質、および日中の活動量に悪影響を及ぼさないことが明らかになった。
 - ・中途覚醒、睡眠効率、入眠潜時、ならびに日中の身体活動量は、介入前と介入期間中の平均値との比較において有意な変化はなかった。

本研究は、BCRL 患者に対する、より実践的なセルフケアプログラムを構築する上で、夜間のみに行う MLB がその基盤となる可能性を示す重要な知見を提供した。

以上の理由により、本研究は博士 (看護学) の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。